

事務事業チェックシート

事務事業No 125 事業名 し尿処理施設適正管理事業

分野別目標	4	自然環境と都市基盤が調和した快適なまち
政策	3	住環境の整備
施策	4	生活排水対策の推進
基本方針	5	し尿の適正処理

事業種別	継続	主な事務事業
事業期間	永年	～
事業実施の根拠法令	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	青岸清掃センター	滝谷善範 (428-4153)
関連課		

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計	一般会計	
	款	衛生費	
	項	清掃費	
	目	屎尿処理費	
	大事業	屎尿処理事業	
事項	し尿処理施設管理事業		

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
		○		
44の約束				○

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする）ための事業か）	事業内容				
	収集されたし尿及び浄化槽汚泥の全量を適正に処理する。	<p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき収集されたし尿及び浄化槽汚泥を微生物処理により処理水と汚泥に分離、処理水は高度処理を行い滅菌後、紀の川河口域に放流し、汚泥は、脱水処理を行い、隣接のごみ焼却場で焼却処分している。</p> <p>平成24年度から5箇年で、老朽化した青岸工場をスクラップアンドビルド方式で汚泥再生処理センターとして建替えるための整備工事を行っており、新施設完成後の汚泥は、低含水率脱水を行うことで助燃剤として隣接のごみ焼却場で使用できる。</p>				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		し尿処理量 168,289.4k1 汚泥再生処理センター建設工事	し尿処理量 164,887.2k1 汚泥再生処理センター建設工事	し尿処理量 168,000k1 汚泥再生処理センター建設工事	し尿処理量 168,000k1 汚泥再生処理センター建設工事 (H28.4運転開始)	し尿処理量 168,000k1 汚泥再生処理センター建設工事 (H30.3竣工)

2 事業コスト

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算
事業費	2,971,967	424,116	1,490,805	1,282,982	4,119,962		1,006,747		200,000	
伸び率 (%)	-	-	-49.8%		176.4%		-75.6%		-80.1%	
人件費	常勤職員	49,003	49,109	49,109	55,195	55,195	55,195	49,109	49,109	
	非常勤職員	13,439	13,439	13,439	9,358	9,358	9,358	13,439	13,439	
	小計	62,442	62,548	62,548	64,553	64,553	64,553	62,548	62,548	
国庫支出金	800,937	3,652	289,037	289,037	996,620		143,164		0	
県支出金	0	0	0	0	0		0		0	
市債	1,793,000	169,600	1,084,100	786,200	3,018,700		508,700		0	
その他	44	46	37	27	47		47		47	
一般財源(税等)	377,986	250,818	117,631	275,717	431,691		354,836		199,953	
所要人数	常勤職員	6.45	6.46	6.46	7.42	7.42	7.42	7.42	7.42	
	非常勤職員	6.66	6.66	6.60	4.76	4.76	4.76	4.76	4.76	
主な予算内訳	整備工事費4,039,679千円									

3 目標及び実績

指標名及び達成状況				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	和歌山市全域から投入されるし尿及び浄化槽汚泥の全量を適正に処理する			年度目標値				
				実績値	168,289.4	164,887		
	単位	k1	全体目標値	年度別達成度				
				実績値				
単位		全体目標値	全体目標達成度					
成果指標	施設稼働率(施設稼働日数/年間日数) * 100			年度目標値	100	100	100	100
				実績値	100	100		
	単位	%	全体目標値	年度別達成度				
				実績値	100	100	100	100
単位		全体目標値	全体目標達成度					
水質基準達成率(基準達成回数/実施回数) * 100 (年間実施回数24回)			年度目標値	100	100	100	100	
			実績値	100	100			
単位		全体目標値	全体目標達成度					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む		中長期的に取り組む	○ 緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる		あまりできない	○ できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	将来的には、下水道が普及し、搬入量が減少すれば減少方向へ移行すると思われるが、現在は、処理能力に近い搬入量があり、集落排水施設からの汚泥処理も行っていることから、必要性は高い。
「見直し」 「改善」案	新施設が完成すれば、発生する汚泥は、低含水率脱水を行い助燃剤として隣接のごみ焼却場で使用することにより、汚泥処理のコスト削減が期待できる。